

853

金澤教會略史

非賣品

020318-000-5

特16-853

金沢教会略史

阪野 嘉七/編

M24

ABI-0124



書中目次

第一章 教會

第二章 傳道

第三章 進歩

第四章 役員

第五章 傳道士

第六章 宣教師及び女教師

明治廿四年四月編纂

一千八百九十一年

金澤教會畧史

第一章 教會

牧師 坂野嘉一

舊長老 長尾無一



明治十二年即ち基督降生一千八百七十九年九月廿三日米國人マリア、ツルー夫人テ、シー、
 出帆して海上を航行し、神戶港に上陸し陸路越前の敦賀港に趣き此所より路を海陸に分ちウイ
 ン氏夫妻は息女アンニーを携へて漁船に塔し金石に向て出帆しツルー夫人は息女アンニーを
 携へて陸路を金澤に向て出發し林清吉氏夫妻出口清女は傳道の目的を以てツルー夫人に同
 伴し此一行は十月一日金澤に到着しウイン氏は翌二日金石に上陸し其後翌日二回はウイン
 氏の寓所に集りて禮拜せり之を金澤に於て天父を崇拜する集會の嚆矢とす同月十七日長町
 四番丁二番地の家屋を借受講義所を開き公然基督教を講義す之を金澤に於て基督教講義の
 嚆矢とす其後講義所を長町二番丁に移し十一月別に材木町に講義所を開き十三年一月更に
 又新堅町に講義所を開けり傳道に着手以來僅々三ヶ月にして既に三ヶ所に講義所を開く運

びに至りしは實に感謝すべき事なり材木町の講義所は開設以後數月にして廢す是より先き乃ち十二年十二月新潟教會員にして聖書賣捌人前山某來りて暫くウイン氏等と共に傳道に従事し翌年四月去て他に往けり四月十一日始て聖餐式を執行す此日ウイン教師より領洗したる者七名あり其姓名左の如し

狩谷 芳齊 狩谷 保女 長尾八之門 狩谷 眞重 狩谷 勝野
林 鈴女 岡村 綱三

之を金澤に於て執行したる聖禮典の嚆矢とす此年五月東京より篠原銀藏氏來りて數ヶ月間傳道に従事す六月十三日第二回の聖禮典を執行し中田久吉氏長尾卷氏ウイン教師より領洗す此年吉原純一唐牛忠之進西村大元西村鈴女杉本眞聖加藤覺等諸氏受洗し十四年五月一日十三名の人員を以て金澤教會を組織し西部中會に屬す當時長町講義所を引拂ひ大手町に移し此所に於て建會の式を擧ぐ此日中會の命を齎し臨場せられたるは青山昇三郎教師アレキサンドル教師青木仲英氏なりき建會の人員姓名左の如し

狩谷 芳齊 狩谷 保女 長尾八之門 狩谷 直重 林 鈴女
狩谷 勝野 岡村 綱三 長尾 卷 中田 久吉 西村 大元

西村 鈴女 吉原 純一 唐牛忠之進(但し岡村氏は會式の際加名せず)

十五年五月八日林清吉氏歸京し八月廿日東京より太田留助加藤敏行の両氏傳道者として來着せらるる四月ウイン杉本眞聖西村大元狩谷眞重長尾卷井口徳之長尾丸景門等諸氏の計畫にて私立英語學校を設立し愛眞學校と稱し大手町に開校す十六年二月内外人の寄附金貳百拾圓を以て殿町に家屋地面を購求し假會堂并に愛眞學校の教場に充つ六月五日太田留介氏歸京し亞て十一月十一日加藤敏行氏も亦歸京せらるる翌二日新堅町議義所廢す十七年會堂の新築を斗畫し長尾八之門三野季暢の両氏を委員に擧げ地を大手町に卜して建築半に至し頃當時地位の不適當なるを認め西村大元氏の周旋により更に石浦町に地を購ひ此所に移して工事落成し十一月十六日捧堂式を執行す當時建築委員の報告する所左の如し

收 入 金	支 拂 金
金拾壹圓六拾六錢 古物諸品賣拂代	金貳百廿壹圓廿四錢 建築費
金八拾圓也 婦人縫物代	金三拾壹圓貳拾錢 地面代
金六拾圓也 外國人寄附	○
金六拾七圓卅六錢七厘 信徒出金	○

金三拾壹圓貳拾錢	地面代ウイン氏寄附	〇
合計金貳百五拾圓貳錢七厘		合計貳百五拾貳圓四拾四錢
差引金貳圓廿壹錢三厘	不足	

十八年四月教師青木仲英氏を聘して本會の教師とす此時教會は微力ながらも自立の者となり青木氏は本會第一の牧師なりき

たらしぬの乳房はなれし幼兒の歩みの程そゆかしかりける

此年十二月高知教會大坂北教會名古屋教會金澤教會を以て浪花中會を組織す十九年十月當會堂に於て浪花中會開かれ名古屋より阪野嘉一氏大坂より吉岡弘毅氏石橋重則氏等來會せられたり全月會員十三名本會より分離して殿町教會を設立す廿年會堂を増築し廿一年四月青木氏職を辭して大坂南教會の假牧師となる此年十一月阪野嘉一教師を聘して牧師とす廿二年九月米國北部長老教會傳道會社の理事博士ミチエル氏并に全國青年會の理事ウヰンヤルド氏來澤し各々我教會に於て説教せられウヰンヤルド氏は公會堂に於て二日間特別に學生の爲演説せられたり本年は稍進歩の有様なりしも廿三年は甚だ遲鈍なりき殊に此年は米價は勿論其他雜穀の價非常に騰貴し其最高價に登りし時は白米壹升拾貳錢五厘南京米すらも

一升の價拾壹錢迄騰貴し麥壹升の價も亦拾錢以上となれり爲に細民の氣息且夕に迫り金澤市内に貧民として數へられたるもの大凡そ六千五百人之を甲乙丙に分ちて其尤憫むべき者即ち甲の部に屬する者四千人以上なりき以て其慘狀思ふへし市中の慈善家は之を賑はし縣廳に於ても頗る救済に盡力し金澤に在る三教會も亦微力を盡して救済に従事せり當時救済委員の報告する者左の如し

貧民救助委員報告

米麥の價非常に騰貴し細民口糊に窮し甚敷に至りては餓死に瀕する者あり爰に於て乎六月一日即ち聖日金澤教會の聖會に於て細民の慘狀を内外の兄弟姉妹に訴へ冷水一滴の慈愛も實に今日は貴重の生命を救ふに足るべき事を告たり此日涙を吞て持合の金員を直に寄附せられたるは米國人某氏と内國人二名にして其金員は壹圓三拾錢なりき是此度の救済義捐金の嚆矢なり爾來内外の兄弟姉妹より續々義捐金有之凡そ三週に救助したる者は百七十四名なり然るに米麥の價日々に騰貴し窮民益々増加せしを以て救助の方法も亦擴張せざるへからざるに至り六月十六日同感の有志者レナード氏方に共議會を開を凡そ五百名の窮民を向ふ三ヶ月間補助する事に議決し之を實行する委員を左

の如く撰定せり

四方田慶治伊藤貫一井上忠太郎平野莊四郎(以上殿町教會員)大橋小太郎三野季暢水登
勇太郎阪野嘉一(以上金澤教會員)保坂健司(日本メソヂスト教會員)サンビー(氏ハ廿
三年一月來澤し傳道に着手せられたるカナダメソヂスト教會の宣教師なり)ウイン
ーズ以上十二名

委員等の互撰により阪野氏を委員長にウイン阪野兩氏を會斗擔當に撰舉し更に六月廿
三日より救助の方法を改め淺の川 小立野 犀川 中央の四部に區畫し淺の川部は四方
田氏等に小立野部は三野氏等に犀川部は大橋氏等に中央部は阪野氏等に分擔せしめ隔
週土曜日に委員會を開き義事を共議せり三ヶ月間に委員會を開きしは惣て八回杉本榮
太郎中山敬一西村莊二大石篤治其他青年會の諸氏は委員を助けて始終奔走の勞を取ら
れたり委員等は右諸氏の厚意を厚く謝す救助の方法は白米を以て隔日或は毎日施與せ
り然れども亦場合によりては金錢麥野菜其他食品或は藥などを施與したる事もありき
委員等が窮民を訪問せし際目撃したる慘狀云ふべからざる者の一二を舉れば即ち空腹
の兒瘦衰へ腸胃浪の如く動搖し疲勞極りて打伏たる寢姿或は玉の緒の將に絶なんとす

る者等なり予輩は彼等に接して喉腸斷んどせし事幾度なるを知らず此度の救助は實に
有益なる働きにして全く其生命を救はれし者もあるなるべし此救濟は實に小弟の意外
に出たり初め小弟か諸君に訴へたる時には冷水一滴の慈愛なりしも終に八百余名を補
助するを得たり是全く兄弟姉妹の慈愛之を爲さしめたるものなり小生は此報告を筆す
るに當り感涙滋然筆を投して天父に感謝し亦兄弟姉妹にも深く謝す集金は三百余圓に
して其大多數は在金澤の外國の兄弟姉妹の義捐に係る者なれば殊更に外國の兄弟姉妹
の厚情を謝す詳細の員數は次の畧表に記載す
但し今日斯の如く報告するも未だ全く救濟の事業を終へたるにあらず尙病人老人等七
十余名には引續き生計の幾分を補助しつゝあるなり以上

收 入		支 出	
金廿七圓五拾錢	六月一日より十八日迄 に阪野へ受取たる分	金貳百七拾九圓拾四錢三厘	白米廿七石二斗
金三百〇三圓拾貳錢	十一月より九月十五日 迄に委員に受取たる分	金九圓也	外國米九斗
外に白米八升八合		金五圓也	麥六斗
新約聖書五百部	英國某貴婦人より寄附	金四圓八拾錢	餅 若芽、其他

○	金貳圓四拾五錢	雜費
○	金拾圓〇七拾錢	金錢施與
○	金五拾錢	教への小雜費
○	金五圓拾五錢	聖書運賃
○	金拾三圓八拾七錢七厘	現金
合計金三百三拾圓〇六拾貳錢	合計金三百三拾圓〇六拾貳錢	
内 三拾九圓九拾貳錢 貳百九拾圓〇七拾錢	内 内國人の寄附 外國人の寄附	
施與 戶數 二百九十四戶 人口 八百六十九人		
内 病人 百廿三人 子供 四百五十九人	老人 六十七人 大人 二百廿二人	

明治廿三年九月十五日 委員長 阪野嘉一

此年十一月頃より金澤在留外國人中に熱心なる連日祈禱會興り聖靈の降臨を祈る事切なり此祈禱會は予か此稿を脱する際即ち翌年四月に至るも尙繼續せりウィン氏は非常に感激し

て二月中三週間の連夜説教會を開き熱心に且つ頗る有益なる説教をせられたり亦本邦人中にも連日祈禱會を開き廿三年十二月廿六日より翌年二月迄繼續せり其主意は聖靈の恩化を祈り新らしき生命を得んか爲なりき是等の祈禱會は内外の雜を撤去し未だ言語の通せざる外客と雖も心情細かに吾人に通し直接に傳道する能わさるも祈禱を以て我儕を助け和氣鬪然として掬するか如き觀を呈したり廿四年一月男子の執事を廢し更に長老と女執事を撰擧す全月廿日積雪の爲會堂全く墜潰し二月新築の事に議決し四月工事に着手す是より先乃ち廿三年の秋女學校の講堂新築落成せり依て新會堂落成迄は此講堂を借用して惣て教會の集會を此所に開き敢て不都合を感せざりき

古諺に曰く猛將の下に弱卒なし然れば教會の盛衰は牧師其人の如何に依らずんばはわらず人あり曰く實に牧師は教會の代表者なり然れども亦教會は牧師の反響也牧師學者なる歟教會は學者風に進み牧師熱心家なる歟教會は熱心なり牧師才子なる歟教會も亦才子風に流れ牧師朴直なる歟教會素直なり牧師文學者なる歟教會に文學思想起り牧師豪邁なる歟教會活潑なり牧師虛飾家なる歟教會に偽善者多し牧師冷淡なる歟教會活氣なし牧師義論家なる歟教會に論客輩出す牧師能辨なる歟教會自ら弁論を貴重す甚しきに至りては牧師の祈禱の風

に習ひ感活演説共に牧師の言語を寫出す者さへあるなりと此言的中せざるも正鵠に遠からざるや疑ひなし偶々賢き教會に不肖の牧師あり或は賢牧師の不肖の教會を卒ゆる事なしとせず然れども是異數なり決して常數にあらず概して牧師と教會の關係は此常數の下にある者とせば豈獨り金澤教會而已之を免るゝ事を得んや果して然れば現今我金澤教會の景况如何論して爰に至れば只赧然筆を擱くの外なし又將來を考ふれば胸塞り腦亂る願くは聖靈の神よ我を助けたまへアーメン

第二章 傳道

金澤の傳道は最初より反對者の激烈なる攻撃なく只加藤敏行氏か一度暴人の爲に毆打せられたるの外は迫害と云ふべきものなし然れどもウイン氏か初めて來澤せられし常時は市人多數の胸中未だ廣濶ならず封建の餘習頗る人心を支配し居たるか故に外人を擯斥し基督教に對する人民の感情は甚だ悪しく講義を聽聞する篤志家を得る事容易ならず或者は耳を掩ふて走り或は潜て譏り或は公然罵詈し其進路を妨けたるもの掛からず又傳道士を見る事恰も惡魔の如く僅に英語の紹介を以て交際の端緒を開き漸く道を勤め壹人の信者を得る事頗る困難なりき殊に北陸は佛教眞宗派の勢力盛大なるか故に我儕の傳道に困難なる事は推て

知るべし然れども事業は漸次に進歩しつゝ教會を設立し人員を増加し益々擴張の勢ひを得たり廿三年に至りて反對の氣焰頗る加り我に對する社會の風潮は殆ど正反對となり罵詈譏の演説は屢々公會せられ新聞雜誌上には無根の捏造説を掲げ我教へを害はんとする者あり或は腕力の恐嚇をさゝる者を生せり此年の反動は獨り金澤地方に止まらず全國皆然り國粹保存國家的觀念の勃興之か原因となり輕躁漢は事實の審理をなさず猥りに基督教を攻撃し自ら免して忠君愛國の士と稱し得々然たり故に此年の傳道は萎靡振はす進歩甚だ緩慢なり何ぞ計らん此反動は覺眠一撃の警鐘とは實に此反動は我儕の信仰を鍛煉する場也慎て上帝の攝理を感謝し勵みて銳氣を養ひ世と戦ふて罪惡不義奸佞を刈除し直接に間接に假面愛國者似非君子を正路に誘ひ國民を教化し彼等の靈魂を天道に導く此天職の爲には刀鏢鼎鑊も辭せざるへし

祈禱 (箴言十九の廿一)

山崩れ浪立騒々攻來ともなと恐るへき神たのむ身そは

聖書 (以弗所書六の十五)

玉はこの道にねどろはふとくとも踏て越ゆへき鞋はこの書

第三章 進歩

建會以來著しき急激なる進歩を見るへからざるも漸々進歩し來り十度星霜回りて基礎歳月と共に倍々鞏固となれり明治十三年即ち最初より廿三年十二月迄に受洗入會せし者貳百五拾七名永眠轉出傳入放逐等差引廿四年一月の現在員百九十名なり然れども現會員中富山大聖寺小松等に散在する者及び兒童を除き金澤市に在住し聖餐に倍する者は百七名にして其中男子は三十八名女子は六十九名なりき建會より人員増加の表左の如し

明治十四年(一千八百八十一年)五月一日建會員	拾三名
全十五年一月一日現員	三十四名
全十六年一月一日全	四十四名
全十七年一月一日全	五十九名
全十八年一月一日全	六十九名
全十九年一月一日全	九十七名
全二十年一月一日全	九十八名
全廿一年一月一日全	百十五名

(此年殿町教會設立)

全廿二年一月一日全	百廿三名
全廿三年一月一日全	百七十二名
全廿四年一月一日全	百九十名

第四章 役員

建會の際撰擧せられたる役員は長老に長尾八之門氏執事に中田久吉氏なり全日ウイン教師アレキサンドル教師青山教師青木長老等は役員の接手禮を執行す

長尾八之門氏は雅號を無一と稱す元加州侯の臣にして高岡町奉行宮腰町奉行御馬廻り御番頭學校督學組外御番頭銃隊物頭等を歴任し頗る民間に人望を得たる謹直忠君の士なり基督教に於ては金澤の初穂則ち第一の領洗者にして本教會に在ては柱石なり氏か領洗せられたるは明治十三年四月當時年齢五十一歳なりき後殿町教會設立の際氏も亦本會を去て新教會設立者の壹人となれり

中田久吉氏は十五年十月青森縣弘前教會へ轉し後メソヂスト教會の傳道士となれり十五年一月長老に三野季暢氏執事に長尾卷氏を撰擧し全年五月十三日ウイン教師長尾八之門長老は三野長尾卷の両氏に接手禮を執行し就職せしむ十六年一月十四日杉本貫聖丹羽時

敏の二氏を執事に撰擧す十六年十月廿七日三野長老の建議に依り長老の在職年限を三ヶ年と定む十一月廿一日高木正則氏を長老に撰擧す十九年四月九日水登勇太郎氏を執事に撰擧す十一月水登氏を長老に撰擧し中村武忠大橋小太郎の二氏を執事に撰擧す廿三年一月廿六日柚木松次郎氏を執事に撰擧す廿四年一月男子の執事職を廢し更に長老と女執事を置く事に議決し水登勇太郎三野季暢阿閉政太郎柚木松次郎を長老に吉村さく女堀章女を執事に撰擧せり

第五章 傳道士

林清吉氏は十二年十月ウイン氏と共に來澤し十五年五月嚴父の病疴危篤の報に接し歸京せらるゝ迄金澤の傳道に執掌せられ更に十六年十二月傳道の任を帶て來澤し翌十七年七月迄金澤傳道に従事し八月富山に轉任し十八年九月英和學校々長兼譯讀教師となり傍ら傳道に従事し教會の長老職を勤め十九年十一月再び富山傳道に従事し廿二年四月任を辭して歸京せらる氏は加越の荆棘を開きし人なり性謹直愛敬ありて交際妙なり金澤最初の傳道者として亦金澤教會の播種者として實に氏の功勞を謝せざるへからず

出口清女はツル夫人等と共に來澤せられたる最初の婦人傳道者なり金澤に滞在せられし

は僅々歳余なりしも傳道頗る功績あり女史か熱心と熟練は今尙教會に彷彿として見るべきか如し

篠原銀藏氏は性多辨ならず着實の傳道師なり氏の滞在は僅々數ヶ月なりしを以て敢て記すへき者なし

太田留助氏は性快濶の士也氏も亦滞在數ヶ月なるを以て敢て記すへき者なし

加藤敏行氏は性豪氣なれども溫柔親切にして注意周到の士や惜むべきは身體薄弱業務に堪へず氏は教會員中に頗る人望を博し一旦教師の依頼を受られたるも病魔之を免さず十七年五月十六日東京大學病院に於て溘焉易簣せられたるは惜みても尙餘あり

青木仲英氏は十四年六月來澤し夏期數ヶ月間傳道に従事し更に十八年來澤し教師職に就き廿一年轉任せらるゝ迄其間三ヶ年忠實に教會傳道に執掌せられ教會は頗る進歩し傳道も亦見るべき者尠からず會堂増築は實に氏か教會中の工事なり以て其一斑を知へし氏は性謹直にして美術の思想あり兒童を愛する事深く又注意周到細事にも能く氣の付く事は氏の特性なりき氏は本會第一の教師なり其功勞長く忘るへからず

戸田忠厚氏は廿年十一月十五日北陸の宣教師として來澤し居を金澤に卜し加越能の傳道に

映掌し傍ら本會を助け或は説教し或は治會の議に與りて親切と相愛の行爲を顯す事數年一日の如し氏は加藤敏行氏の伯にして傳道氏中最も古き人なり抑々本邦人中公然基督教々職に任せられたるものは奥野昌綱小川義綏戸田忠厚の三氏にして其就職は九年十月横濱海岸教會に於て執行せられたり之を本邦教師の濫觴とす氏の如きは日本基督教會史に特書すべき人物にわらずや爾來十數年間教職に在り經驗は歲月と共に重り此經驗を利用して我輩後進者を教導す豈亦有益の人物ならずや氏は性快濶氏に接して憂鬱を融かざる者殆ど稀なり曾て予は氏と京坂に同行せし事あり旅中氏の滑稽は實に抱腹絶倒噴飯に堪へざるもの日としてわらざるなし羈旅の憂鬱は我胸中に住むべき所を失し只愉快の天を戴く而已なりき氏か舌頭に潜伏する憂鬱の鍵は何たる妙力ぞ氏か講壇の大喝一聲誰か眼を醒さざる然れども忽焉意表の論法と譬諭の面白さには笑を吞まざる者稀なり氏か三寸の舌を以て睡眠を打破し忽にして情顔を變して笑面とし亦忽にして哭しめ忽にして起しし經驗の功とは云ひながら亦妙と云ふへし其性質全く叔と反對する者の如く覺ゆ氏は實に予か親友にして且つ益友なり

阪野嘉一は廿一年十一月教會の招きに應じ來譯して牧師の職に就く

因に記す傳道士伊藤貫一氏は明治廿三年五月來譯して殿町教會の爲に盡力せらる

第六章

外國宣教師并に女教師

ツル一夫人は十二年十月一日英語教師の職を以て來譯し専門學校に教授するの餘暇寓所に於て二三の童子に英語を教授し又傳道に盡力し十三年夏歸京せらる夫人は性柔和にして愛清深く尙且つ經驗に富み敬すべく愛すべき女傑なり夫人か細やかなる相情は永く教會の記憶に彫られ教授の熟練は當時輕躁男子の赤面する所となり交際の板目なき事は只驚歎の外なし

ウイン氏は十二年十月専門學校の招きに應じ來譯し傍ら傳道に従事し専門學校の教師職を解れてより杉本西村等諸氏と謀りて私立英學校を開き英語の教授と傳道とに映掌し十九年五月病癒療養の爲歸國し更に廿一年四月健全なる身體を以て渡來し傳道教育に従事す英和學校の新築は實に氏の盡力に依りて成れる者なり女學校の講堂新築も亦氏の盡力に依れり然れども氏は教育家と云ふよりも寧ろ熱心なる傳道師と云ふへしコリントの教會は使徒パウロの傳道の結果なるか如く我金澤教會はウイン氏の傳道の結果なりパウロをコリントの使徒と云ふへくんはウイン氏は金澤教會の使徒なりエペソの教か使徒パウロの熱涙の凝結

したるものならんには金澤教會はウイン氏の熱涙の凝結と云はざるを得ず實にウイン氏は金澤教會の恩人なり氏は性溫柔謙遜にして信仰厚く風采卑からず傳道に熱心執掌せらるゝ事は十年一日の如し又客に接するには貴さに阿らず賤さを慢らす然れども禮讓は常に亂るゝ事なく本邦の傳道士に接するには骨肉の親みを以てし信徒を見る事恰も家族の如く病者あれば哭して平癒を祈り憂苦に陥る者あれば自然に菜色現れて痛歎し教會を補佐するには慎て顧問の地位を守り氏か眼中には教會は恰も家庭の如し一個のウイン氏としては余は君子と云ふを憚らす宣教師としては實に忠愛の士と云ふへし夫人も亦良人に譲らざる熱心者にして愛情至て細やかなり教會はウイン氏夫妻に負ふ所尠からず其功勞と親愛と忠實とは永く教會の記憶に存し後進者の龜鑑たるへし我輩は茲に慎て謝意を表す氏も亦廿四年の講壇に立て昔日を追懷せば衷情果して如何そや

ポートル氏は十六年十一月三日來澤し當時専ら英學の教授に従事し稍日本語を解するの期を待て傳道に従事しウイン氏歸國中は教育傳道共に一身に引受け能く其任を盡せり殿町教會の建設及び全會堂の新築に於ては氏は與りて尤力あり氏は苟くも偏頗の人物にあらず故に金澤殿町教會の顧問の地位に在ては胸中甲乙の區別なし然れども稍發達したる金澤教

會よりも寧ろ幼稚なる殿町教會の爲に謀る所比較上多きに居れり是は自然の勢にして亦適當の處置と云ふへし氏は性多辨ならず然れども敏捷にして人を見るの才氣あり故に實際廣く事務も亦滞滯せず氏は固より一個の宣教師として恥ぢず然れども亦一個の教授家なり學生の氏を慕ふ事恰も骨肉の父兄に於ける親わりき氏は金澤に於てドクトルカミングス女史と結婚せらる夫人も亦能く良人を助けて其任を全ふせしめたり廿一年去て大坂に往き専ら傳道に従事せらる

因に記す愛真學校は明治十六年六月七日官の認可を得て大手町貳番地に假校舎を設け
全年十一月八日殿町五十六番地に移轉し又十七年九月四日南町九十四番地に移轉し更
に十八年一月十六日廣坂通り十二番地新築校舎へ移轉し北陸英和學校と改稱し二十一
年小立野に移轉す

サイナ、ポートル女史は宣教師ポートル氏の妹にして兄と共に來澤し幼稚園を開き小學校を設立し専ら兒童の教育に熱心し日曜學校に盡力せり女史は性淡泊にして幼兒を愛するこゝと深く能く其任を盡せり二十三年十一月健康保養の爲十八ヶ月の後再以來澤を約して歸國せられぬ

因に記す幼稚園小學校は明治十九年一月十一日東京の人富田さん女名古屋の人吉田ゑつ女等と謀りて廣坂通りに開き廿一年九月下本多町に新築落成し之に移る

ヘッセル女史は十六年五月三日來澤し女學校を設立し専ら女子教育に執掌し頗る功績を收められたり又日曜學校婦人傳道等に盡力する事尠からず其間接に直接に教會を補佐せらるゝは女史の赤心の發表する者なり女史は性温和にして愛情深く何人と交際するも常に温顔を以て愛情掬するか如く覺ゆ女史の日本語に巧なるは恰も本邦人の如し

因に記す女學校は十七年四人の生徒を以て初め十八年三月官の認可を得て廣坂通り九十三番地に開校し全年八月柿木畠に校舎を新築し之に移る

ネーラ夫人は十九年八月來澤してヘッセル女史を助け専ら女子教育に執掌せらる且つ安息日學校の教授に甚だ熱心なり夫人は性沈着にして起居靜肅頗る高尚の風あり夫人特に音樂の妙手なり

ヘーズ氏夫妻は廿一年二月來澤し専ら宣教に従事し

レナード氏夫妻テーラ氏夫妻は廿一年十月來澤して英和學校の教授を兼宣教に従事しフルトン氏夫妻は廿二年十一月來澤して英和學校の教授と宣教に従事しハルクネス氏夫妻はフ

ルトン氏も共に來澤して専ら英和學校の教授に執掌しシャウ女史は廿二年十二月廿五日來澤して女學校の教授となりラハラント女史は廿三年一月來澤しポートル女史に亞て幼稚園の主任者となりビゲロー女史は廿三年十一月來澤してポートル女史に代りて小學校の教授となれり何れも教會の良友にして善良なる紳士貴婦人等なり就中ウイン氏夫妻ポートル氏夫妻ポートル女史ヘッセル女史の如きは我教會史に特書すべき人々なり

明治二十四年四月十三日印刷

明治二十四年四月十三日出版

金澤市油車二十四番地

平民

編纂者 阪野嘉七

發行 金澤市石浦町廿三番地ノ二 七

印刷人 吉本次郎兵衛

